

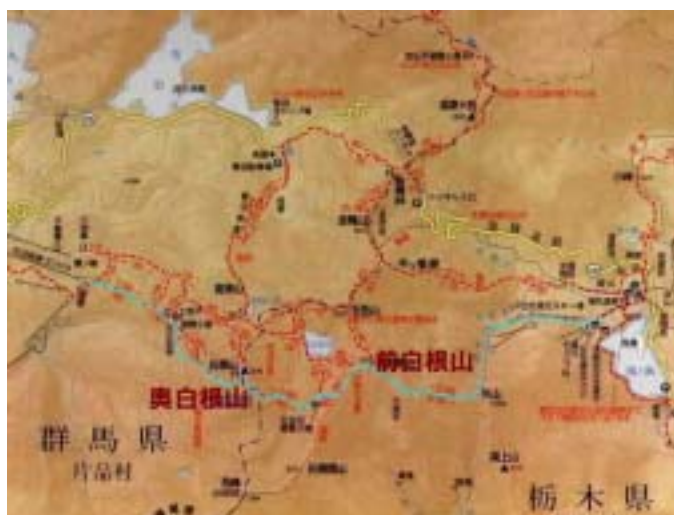
以北の最高峰 2578m

12.

奥白根山 (日光白根山)

丸沼ー奥白根山ー奥日光湯元温泉

2001.10.27. by M.Nakanishi



10月27日 快晴。 一度行きたかった金精峠への道・以北の最高峰「奥白根山」にのぼりました。

休日 急に思い立って上越へ。朝5時半起き。「谷川岳の紅葉を見るのもよし、鳩町峠、吹割の滝に行ってもよしちょっと時間的には遅いが、うまく交通の便取れば、菅沼から念願の奥白根にのぼれるかも・・・」いつものごとく何とかなるやると・・・

バスとの連絡で行けそうなところへと朝7時51分上野発の新幹線に飛び乗る。

最初は谷川岳の紅葉へと思っていたが、先々週

「安達太良 くるがね小屋」の紅葉見たこともあり、新幹線乗っている間に「沼田から金精峠への道へ行って出来れば丸沼から奥白根山へ」。

学生時代 長野の友人がよく 草津白根から上越沼田を通り、丸沼・菅沼を越え、金精峠越えに日光への道を紅葉の素晴らしい街道として熱っぽく語っていた街道筋。

尾瀬へ行くたびにその道すがら、いつかはこの分岐する金精峠への道をたどって神秘的な丸沼・菅沼を抱く奥白根山へと頭にあった山である。

関東・東北で一番高い山でありながら、上越側 日光・中禅寺湖の平野部や麓の登山口からは見えず、アプローチの長い山として静かな山と言われてきた。

深田久弥「日本百名山」の一つとして、また丸沼から2000米の高さまで一機に登るゴンドラリフトが運転され、行きやすくなったと人気が出てきた山である。

とは言え、東京から日帰りとなるとちょっと厳しい山ではある。時間的には少し遅いが、沼田発10時の大清水行のバスに乗れたので、奥白根の頂上には立てそうである。

1. 丸沼ゴンドラリフト 登山口へ

左に武尊 右に赤城の山を見ながら1年ぶりに奥日光・尾瀬へとバスが登っていく。紅葉真っ盛りの候で、この街道も車で一杯と心配していたが、何とか時間通り走る。武尊山への登山口でもある「吹き割りの滝」には滝と今が盛りの紅葉を見るため、マイカーが列をなしている。

1時間ちょっとで鎌田の集落。ここで尾瀬への入口大清水への道と金精峠を越えて奥日光へ行く道とが分岐。下車して 尾瀬への道から分かれ、タクシーで奥日光 丸沼・菅沼から金精峠への道に入る。この道は上信越から奥日男体山・戦場ヶ原を抜けて中禅寺湖から日光へ抜ける古くからの街道筋。



丸沼ゴンドラリフト駅周辺 背後の山は武尊山

山々は紅葉真っ盛り。車を止めて写真を撮っている人も多い。鎌田から約15分突如 奥白根の荒々しい岩峰が堂々たる姿で眼に飛び込んできた。谷沿いの紅葉を見ながらジグザクの登りを繰り返して、約30分で丸沼のゴンドラリフトの前につく。

周りは丸沼のスキー場で、一面黄色に色づいた雑木林の中、正面の奥白根の山へゴンドラリフトがかかっている。

奥白根山へはここからゴンドラで2000米の高さまで一気に登り、頂上を目指すか または、丸沼より、もう少し先の先の菅沼まで行って尾根伝いに登るかである。

正面の奥白根の中腹までゴンドラが 一気に登って行く。幸いすぐ乗れたので時間の節約。

真っ黄色の林の中をゴンドラが高度を稼ぐにつれ、眼下に紅葉の樹林の中に丸沼・菅沼が見え、その背後には堂々とした山塊の武尊山が真っ青な空に浮き、遠く上信越の山々が霞の中に浮いている。

ゴンドラ終点は奥白根山中腹 2000米の地点。

駅前からは樹林の向こうに青空を背にした奥白根山が岩峰を頂上に左右均整の取れたどっしりとした姿でそびえている。



丸沼ゴンドラリフトから



岩峰の奥白根山と頂上駅

2 時前に奥白根山の頂上へ針葉樹の緑と幹の白のコントラストが美しい樹林の中へ入っていった。この分だとちょっと遅くなるが、奥白根山の頂上を経て、奥日光側の湯元温泉まで降りられそうである。高度が高いこともあり、樹海は針葉樹の緑の森。

【2】丸沼 ゴンドラリフト頂上駅から奥白根山へ



標高 2000 米。 風が冷たい。正面には青空をバックに左右均整の取れた山体の奥白根山が迫ってくる。正午前 ちょっと時間的には遅いが雲も無く快晴。

靴紐を締めなおし、頂上では 360 度の展望を期待して針葉樹の樹海の中に足を踏み入れた。

足元はもう昼を越えていると言うのに霜柱が随所に残っている。また、今回 奥白根を歩いてビックリしたが、どこも尾根筋の樹林の中の木々の根が剥き出して、土が剥ぎ取られている。尾根の勾配がきつい為か 大雨があった為か 特に前白根山から湯元温泉へ下る登山道などは急勾配の中、登山道が深く剥ぎ取られ、倒木と剥き出しの根が倒れこみ、常に厳しい状態だった。

頂上が見え隠れする中 緑深い樹林の中を奥白根の山腹を巻くように次第に高度を上げてゆく。



木々の間からは今通ってきた沼田からの谷筋の向こう側に、武尊山の大きな山塊が見え、その背後に越後三山 巻機山が見える。さらに右手に眼をやると尾瀬の山々至仏 そして 燧ヶ岳の特徴ある姿が前座の山並の向こうに見える。途中でガレ道を頂上へ登ってゆく道と別れ、ひたすら斜めに右へ右へと山肌を登る。

武尊山・谷川岳遠望



樹海の中から奥白根



1 時間とちょっとで樹林帯を抜け、頂上へと続く尾根筋にとびだした。

周りにさえぎるものが無く 風が冷たいが、白い岩肌とザレの間ところどころに這い松の緑があり、バックの青空に映えて美しい。



見上げると白いザレ道が頂上の岩峰に向かって続き、米粒のように人が登ってゆくのが見える。振り返ると上信越の山々が青空に浮いているのが見える。遠くに浅間の山並も・・・・・・・・。



上越側 の山腹を登っているため、日光側の山並や中禅寺湖は見えない。剥き出しの大きな岩がところどころに転がるザレ道を約 30 分ほど登り、頂上直下の岩場に至る。ゴツゴツした大きな岩の割れ目をのぼり切ると大きな岩のきれ落ちた向こうの岩が頂上。切り立った岩の上にたつと奥日光の山々 男体山・中禅寺湖が薄っすらかすんだ中に見える。幾つかの岩を上り下りして 狭い岩峰の先に立つ。奥白根山頂上である。登り初めて約 2 時間で頂上。



奥白根山 頂上から 奥日光の山々を遠望

【3】奥白根山 頂上で 360度の展望



奥白根山頂上からの展望

標高 2578m。信州から上越・会津・奥日光・秩父へとグルッと 360 度見渡せる東北・関東で一番の高所。30 年以上も昔 友達に金精峠・丸沼・菅沼の名前と共に教えてもらった奥白根。やっと頂上に立ちました。足元からは垂直に切れ落ち、眼下には五色沼が紺碧の水をたたえ、五色・前白根へと続く奥日光への尾根筋が続いている。



奥白根山 頂上



頂上直下の五色沼

周囲の山々を見渡すと南西から北に浅間・白根 武尊山塊 越後三山 巻機山など上越の山々が並び、さらにその北に尾瀬 至仏 燧ヶ岳 会津駒など奥会津の山々。そして北から東に 奥白根の尾根筋の向こうに戦場ヶ原・中禅寺湖を前に男体山・太郎山など奥日光の山々が見える。さらに南側には大きな皇海山。

奥白根からは富士山が見えると聞いたがこの日はダメでした。

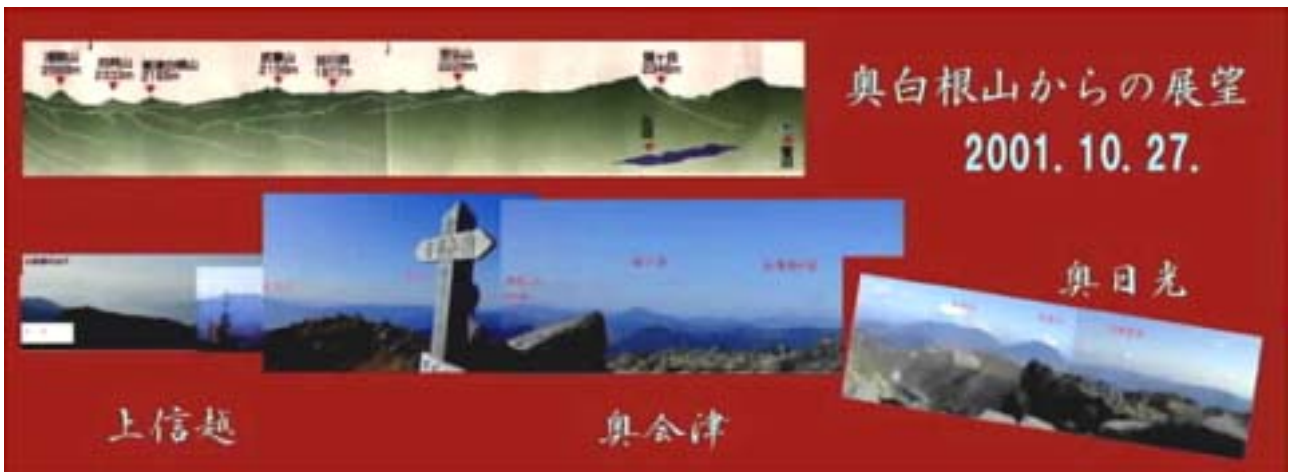
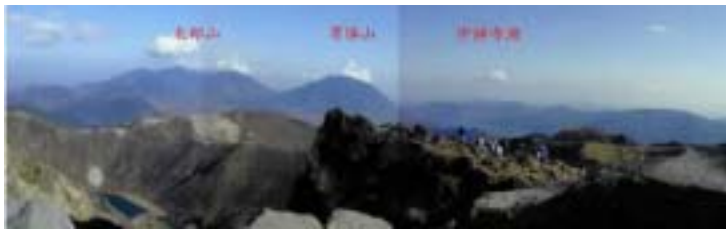
頂上は秋の風が冷たい。頂上に約 30 分ほどいて、ちょっと暗くなるかも知れないが、奥日光湯元温泉へ下る事にした。

【奥白根山からの 360 度の展望】

上信越から会津への山並



奥白根山の稜線と奥日光の山並



【4】奥白根から五色沼・前白根山を通過して奥日光湯元温泉へ



午後2時半過ぎ、秋の日差しが、もう弱く頂上に立つ人影や岩峰の陰が大きく岩肌に残っている。少し遅いが、予定通り、奥日光湯元温泉へ向かって下る事にする。

奥白根の頂上からは急なザレ道をもう落ちてゆくかのごとく下ってゆく。

灌木の中にはいってもこの傾斜は同じ、五色沼のほとりの避難小屋まで下る。

時間も遅いこともあり、上越側 丸沼からの登りの

人の行き来とは違い、もう誰も日光側へは歩いていない。山陰にはいるともう秋の日差しが、長く陰を引いている。

降りていく向こうには高さはさほどないが前白根の尾根筋が壁のように立っている。

いやと言うほど下ってまた、上りなおし。1時間程で前白根の頂上につく。

丁度逆光で奥白根の岩峰が黒く光っている。前白根からは平坦な灌木の尾根筋を湯元に向けて下ってゆく。

頂上から五色沼・避難小屋への下りで



五色沼非難小屋への急なくだり



五色沼避難小屋周辺



前白根山への尾根筋

前白根山の尾根で



前白根山の稜線で



前白根山頂上



前白根山頂上から奥白根山を望む

奥日光 湯元温泉へ

ここまでくれば 今日湯元温泉にゆっくり入ってと思ったのが、運のつき。

すごいくだりになりました。今、思うとおそらく旧道に入ったのか、集中豪雨で道があれたのか……………

湯元への標識で尾根筋を離れ急な下りの山道を下りだした。倒木が多く、登山道が荒れているが、何の疑問もなく急な下りを下ってゆく。



そのうちいい道にトラバースするだろうと思っていましたが、ついに下まで山肌に掘れこんだ急勾配の山道を倒木と木々の根につかまりながら、一直線に下ってゆく事になりました。。

もうどうしようもない。テープもついているし、ふみ跡もしっかりしているが、道か水が出たあとの流れた跡かもはっきりせず。下るのみ。遙か下に湯元の街が見え隠れ。

30分ほど下って、やっぱり 悪戦苦闘している一人に追いつく。避難小屋から出会った唯一の人。

「すごい道ですね」でも この道 登る人の事思うとまだましですね」旧道にはいったのかなあ… 一度旧道・新道の標識あって新道へきたはずだけど……………」と言葉を交わしたがどうもわからず。ぼくの方が早くなったので、そのまま追い越してゆく。

結局湯元温泉のスキーリフトの横まで、この悪路が続いた。

ここだけで約1時間強 悪戦苦闘。

周りが薄暗くなった5時過ぎにスキー場の縁へ。スキー場の中を通過、スキー場の入口に来ると「登山口・入山届」の標識。

道そのものは違っていませんが、旧道かも？
今もって不思議。



明かりのついたホテル街に出て「湯元荘」で温泉へ少し
硫黄の匂いのする乳白色の湯が心地よし。

奥白根山。丸沼のゴンドラで途中まで行って「大した
こと無し」と思っていたが、やっぱり大きな山。日頃
の運動不足が骨身に堪えた山でした。

でも、念願の山に登れ、また「上越側から奥日光へ」一
度はやってみたいと思っていた道も歩けました。

腕や足のあちこちに擦り傷。 お湯がしみて痛い満足。

真っ暗な空をみあげ、今日たどってきた道筋を思い返しなが

奥日光湯元温泉にて

2001.10.27. by M.Nakanishi



追伸 この日 日光は紅葉を求め、今年一番の入出。「いろは」坂の登りに昼間約4時間かかったそうです。「もう クラッチ踏むのも嫌。」とバスの運転手氏。帰りもう6時を過ぎているのに日光駅まで2.5時間かかりました。

「関東の人の波は半端でなし。」つくづく関西との差実感しました。

以北の最高峰 奥白根山【完】